

第3回 西脇市教育振興基本計画検討策定委員会 議事趣旨

平成25年10月3日（木）13：30～15：00

生涯学習まちづくりセンター 会議室2

1 開会あいさつ

教 育 長

本日第3回目の検討委員会に、委員の皆様にはご多用な中にもかかわらずご臨席いただき、本当に感謝している。今回の資料をお届けするのが大変遅くなってしまったことを最初にお詫び申し上げたい。今回提案している内容は、途中経過であるということをご理解いただき、大きな項目・方向性の確認、検証等でご批正を願いたい。

今回の検討委員会でお願ひしたいことが三点ある。一点目は、検証可能な評価システムを作ることにに関して、評価「規準」が適切であるか、評価「基準」が妥当であるかを検討いただきたい。具体的には、評価の指標として、研修会の回数ではなく、アンケートを取るなどして中身の評価を行う等の設定で提案させていただいているが、適切な評価規準・基準についてご検討いただきたい。

二点目としては、第4部に記述している一つ一つの具体的な施策の妥当性を吟味いただきたい。欠落している内容があれば、ご意見をいただきたい。

三点目としては、全体を俯瞰していただき、吟味いただきたい。

今回提案の第4部は、前期計画の様式を大きく変更している。秋田県が作成している様式等を参考にして作成している。当初の予定をふくらませた分量となっているが、本日は第4部全体を検討いただきたいと思っている。

私ども教育委員会事務局内では、このような作業をとおして、前期5年間を総括し、次の5年間をどうしていくのかを考える機会とできるように指示している。うまくいったところはPRを、そして、今後とも、お題目で終わらせずに、具体的な中身で明確に発信していきたい。

次回の検討委員会で完成版に近いものを提示し、パブリックコメントを行った後に、第5回の検討委員会を開催し、最終案をお示ししたいと考えている。限られた時間ではありますが、委員の皆様の忌憚のないご意見をお伺いしたい。

2 前回議事録の確認

3 資料説明

事 務 局

4 協 議

(委 員 長) 今回は、第4部のたたき台が提出されている。我々の意見や要望をもとに修正し、次回まとまったものを出してもらおうという手順となっている。内容について委員の皆さんから意見を出していただきたい。

私から数点お話ししたい。第4部を全体として見ると、整合性のとれていないところがある。重点目標が6つあり、それを実現するための施策の柱がある。施策の柱を実現するために基本方針があり、重点的な取組がある。それに評価指標がある。しかし、中にはそのようなフォーマットになっていないところがある。例えば、51ページ。どの基本方針にどの重点取組が対応しているのか分かりにくい。56ページなどは、整合性が取れている。

二つ目は、この5年間の成果と課題をもとにし、施策のメリハリをつけて記載する方がよいのではないか。前期と後期のつながりをふまえて記述してほしい。そうすれば「何のためにやるのか」ということが分かりやすくなると思う。

それでは、委員の皆さんから提言やご意見をいただきたい。

(委 員 A) 「黒田官兵衛」の記述があるが、官兵衛のことが記載された文献が本当にあるのかどうか聞きたい。黒田官兵衛については市をあげて取組を進めているが、大河ドラマの放送が終わった後も、引き続きいろいろな支援を続けていくのか。私は、頼政祭のように地域でやればよいと思う。

それから、茜が丘の複合施設に新しい図書館ができると聞いているが、新しい図書館の具体像はできているのか。また、学校や地域の図書館をもっと充実するということはないのか。加えて、電子書籍化の取組などは進められているのか。

次に、「食育の推進」とあるが、実際にどのくらいの地元食材を利用しているのかお聞きしたい。

最後に、幼保一元化の具体的な方向性を教えてほしい。

(生活文化総合センター) 黒田官兵衛の件であるが、私どもは官兵衛の文献を収集している。福岡県に黒田藩が移った時に、黒田家は播磨の多可郡黒田村が発祥の地ではないかとの見解を述べている文書がある。江戸時代の播磨鑑にも、多可郡黒田村の生まれという記述がある。

郷土資料館には、正しい資料を収集する使命がある。官兵衛に関する一次資料がないので、黒田家の発祥は黒田庄の可能性はあるが、

官兵衛自身が黒田庄で生まれたと言い切るのは難しいのではないかとというのが、歴史学者の見解である。イベントとしてまちづくりに盛り上げるのはよいが、学校教育で正史として取り上げるのは、難しいのではないかと考えている。

(教 育 長) 「この説が注目されている」という書き方が精一杯かなと思って
いる。現在小学校4年生社会科の副読本を改訂中であるが、黒田官
兵衛のことは地域教材として教科書に取り上げてほしいという思
いがある。また、官兵衛の取組は、継続したまちづくり活動として、
一年だけで終わらないようにしていくことが重要であると考えて
いる。

(生活文化総合センター) 新しい図書館は、現在の1.5倍の広さとなり、20万冊の蔵書にな
る。ゆったり見ることのできるようなスペースも設置する。また、
ICタグを利用し自動貸出を導入する。子どもの本のコーナーと一般
書をコーナー分けすることにもなっている。

地域の図書館の件であるが、分館をもつのは西脇市の規模では困
難ではないかと考えている。しかし、貸し出し・返却ポイントを作
っていく計画である。このようなことを進めることにより読書人口
の拡大を図りたい。

(給食センター) 現在精米については、市産のきぬむすめを使用している。野菜に
ついては、26%が地元産となっている。

(教 育 長) A委員の言われたような「地産地消」や「たべようプラン」とし
ての具体的な指標を今後とも設定し強力に推進していきたいと考
えている。

(教 育 部 長) この9月に「子ども・子育て会議設置条例」が可決された。現在
委員の選定を児童福祉課が行っているところである。

(委 員 A) 時間をとって調整しているということか。いつごろスタートする
予定なのか。

(教 育 部 長) 児童福祉が担当しているので、詳しいことは分からないが、本年
度中に数回の委員会を開催できると聞いている。

(委 員 A) 幼保一元化については、当初とずいぶん変わっており、市民も心
配している。その会議が一日も早く立ち上がり、具体的目標を示し
てやってもらいたい。

(教 育 部 長) 年内に1回目は開催できるように聞いている。

(教育委員長) 学力向上について、市民にも分かりやすいような内容にしていか
なければならない。検証可能な指標を設定することにより、もっと
明確に検証できるようになるのではないか。

同じ教材を使って授業しても、教師によって子どもに伝わる影響
が変わってくる。教師の力量をどうやって高めていくか。そのよう

な内容をどう振興計画に記述していくか。

地域・学校・家庭が一体となって教育を進めていかなければならない。そのような内容を、初めに記載していく必要があるのではないか。

(委員 長) 学力向上についての指標の根拠は何か。

(教育研究室長) 全国学力学習状況調査の設定通過率が±5%に収まるようになることを考えている。平成25年度の調査では、小学校6年生は56%がこの範囲内であった。「学力向上80作戦」に連動して、到達指標80%以上をめざしている。中学校に関しては、本年度は達成しているので、この状況を継続していきたい。

(委員 長) 例えば「一日あたり1時間以上読書をしている児童生徒」を5割にするというのは、どのような根拠なのか。どこか目標としている市があってそこを目指しているのだとか、小学校中学校の先生方からヒアリングをして数値を設定しているのか。できもしないような数値でもダメだし、黙っていてもできるような数値もダメ。市民によくがんばっているな、と分かるような数値を設定してほしい。

(教育研究室長) 全国1位の秋田をイメージしている。数値については、今後とも検討を進めていかなければならない。

(教育 長) 根拠については、全国最高値を意識して取組を進めている。それに加えて、徹底するということ意識していかなければならない。現在20数%がいきなり100%になるかということだが、目標という限りはあえて100%にしていくことが大切だと考えている。

(委員 B) 「若手教職員の育成」に関してであるが、学校の仕事を通して成長させる、OJTの考え方であるが、そのような文言を入れてほしい。ベテランの教師と若手の教師が組むことにより、現場で学ぶことが重要である。

(教育委員 長) 南中学校で道徳教育の研究会に参加して、授業後の研修会で授業改善の取組を高く評価されていた。そのようなことをシステム化することが大切だと思った。

(委員 B) 学校における授業研究、授業改善の取組は各校工夫しているところである。その中で、予習課題や学力向上についても、意識してやっている。

(教育委員 長) 学校単位ではなく、市をあげてやることが重要であると思う。

(委員 B) 指導訪問の中で、全員が市教委から指示のあった項目を踏まえて授業を行っていて、その中で教育委員会からの指導・評価を受けている。

(委員 C) 中学校においても、市内をあげて研究を進めている。しかし、教育委員会との連携という意味だけでは弱いので、より積極的な記述

があればよいのではないか。他市では、年度当初の教科ごとの担当者会で授業研究テーマなどを決めている例もあるので、参考になるのではないかと思う。

(教 育 長) 子どもをお客さんにしない。子どもたちによる授業の相互評価を行っている学校がある。教師が授業研究した内容が現場で子どもに伝わっていない、ということではいけない。

(教育委員長) 9月議会で学力調査に対する質問が出なかった、ということを知りて愕然とした。市民がこのことについて関心がないのか。教育委員会として、もっと発信していく必要があるのではないか。詳しい数値よりも、市民に対するアピールがあればよいのではないか。

(委 員 長) 保護者や市民に広報している事例を紹介いただければ。

(委 員 C) 学校単位では、保護者へのお知らせの中で、全国平均に比べてどのような状況であるか等情報発信をしている。

(委 員 長) 保護者の反応はどうか。

(委 員 C) 成果や課題等について、それなりに理解していただいていると思う。ただ、それをどうこうするというのは、学校の仕事だし、家庭に協力を求める部分については、引き続き広報していきたい。

(委 員 長) このような情報発信は、後ろ向きに使うのではなく、前向きに活用してほしい。

(委 員 A) 西脇小学校の木造校舎改築について具体的な方向が決まっているのであれば教えてほしい。

また、男女共同参画の取組については、ぜひともどんどん進めていってほしい。

それから、総合市民センターは、「中央公民館」「カルチャーセンター」とも呼ばれているが、統一した名称にならないかという話を聞くことがある。どのような使い分けがされているのか。

(教育総務課長) 西小木造校舎の件では、新聞報道にあったように、4回の検討委員会の結果報告書を踏まえ、現状保存派等の意見も聞きながら、教育委員会としては中立的な立場で、今後拡大検討委員会を開催していきたい。時期としては、予算の関係もあるので、12月議会で条例提案等を行い、本年度中には何回か開催していきたい。そのような中で、方向付けを図り、民意を集約し直し確定を図っていきたい。

(委 員 A) 西脇小学校はトイレが外にあるため、そのせいで学校がいやだと言っている子どもがいると聞いたことがある。そのような状況の中で、どのように考えていくのか。よい方向へ進むように検討していただきたい。

(中央公民館長) 「公民館」というのは社会教育法上の名称であり、「総合市民センター」は公園都市法上の名称である。その二つの施設を合わせた

愛称が「カルチャーセンター」である。人によって使い方がまちまちなどところもあるので、庁内でも検討させていただきたい。

(委員 A) ここにいる人は、その区別ができていますが、市民のことを考えて検討して行ってほしい。

(委員 D) 職員の資質向上の件であるが、幼稚園でも 23 年度から公開保育の研修を進めている。国公立保育所の研修会や市が主催する研修会にも積極的に参加している。しかし、現実には職員数のこともあり、なかなか出張できないこともある。

(委員 E) 51 ページの書きぶりと、56 ページの書きぶりが違う。ある程度のフォーマットをそろえてほしい。また「文化芸術活動を行った人の数」等の指標が設定されているが、実際は、もっと多いのではないか。指標についても再検討する必要があるのではないか。

(教育長) 例年 2 月に実施する市民アンケートの内容を記述している。そのことを明記する必要がある。

(委員 B) 「ことば力の向上作戦」であるが、前回は提案したように週 1 回の読書時間を設定することを入れてもよいと解釈してもよいか。

また、少子高齢化で子どもたちのスポーツ環境についてであるが、天神池のプールが入っていないのはどうしてか。欧米に比べて、市民の活用が少ない。スイミングの子どもたちだけの活用になってしまっている。もっとアピールできないか。同様に、アピカホールの演奏会に家族で来られているのがとても少ない。文化を家族で味わうというような活用ができればより素晴らしいと思う。家族でスポーツを行ったり、文化を体験したりということができればいいなど常々考えている。

(教育長) 文化スポーツ財団の事業をどのように記載するか等についても、今後、検討したい。

(委員長) この会だけではなかなか意見が伝えきれないかもしれないので、メールで意見を述べるフォームを作っただけであればありがたい。そこで、意見を再度集約していただきたい。

(教育研究室長) その方向で後日、連絡をさせていただく。

5 諸連絡・今後の予定について

次回会議は、11 月 5 日（火） 午前 9 時 30 分から開催することを確認。

6 閉 会